

大会宣言

日本中国友好協会大阪府連合会は、7月2日、第63回大会を大阪グリーン会館において開催しました。昨年の大会以降、中国への関心に応え、府民の中に日中友好をひろげるための不再戦活動、友好交流活動が旺盛に取り組みられました。この1年間で新たに日中友好運動に加わった人たちは61名で、24名の純増となりました。2015年7月以降、25か月連続で新しい会員を迎え、増勢の中での開催となりました。

安倍政権は、秘密保護法、安保法制＝戦争法につづき、6月15日早朝に国民の思想・良心の自由を侵す憲法違反の「共謀罪」法を強行採決し、「海外で戦争する国」作りの体制を進めています。しかし同時に、「憲法改悪許すな、9条守れ」の立憲主義、民主主義、平和主義を取り戻す国民の共同も広がっています。「アジアと世界の平和に貢献する」私たちの友好運動にも、これまでの枠をこえた人たちに呼びかけ、共同していく規模とテンポとが求められています。

大会では報告にもとづき10人が発言し、活発な議論が行われました。日中不再戦活動では、昨年12月開催された「南京の記憶を今につなぐつどい」成功に続き、今年11月の「80年目の南京」のつどいを成功させる意義を確認しました。また北東アジアの旅など日中友好を願う団体との共同のとりくみが前進しました。中国帰国者センターなど帰国者との交流もさらに深まっています。「支部活動の5原則」に基づく豊かな日常活動と工夫、新しい支部づくりに向けた取り組みや決意が披露されました。女性部の活動再開には新たな飛躍への大きな期待が寄せられています。40周年を迎えた太極拳普及活動、中国「百科検定」を柱に広がりを見せた学習活動、中国人（外国人）旅行者の増大への対応のあり方など、多彩な活動報告は大会参加者を大いに励ますものとなりました。

私たちは、「学習を基礎に、豊かな日中友好運動」を合言葉に、「外に打って出る」活動を広げ、共感する仲間を増やし、不再戦平和の誓いを基本にした日中両国民の草の根レベルでの交流が、両国民の信頼関係と両国関係改善の力であることに確信を深めました。

一面的な中国報道が氾濫する中で、「日中不再戦・平和活動」では、侵略戦争の事実を語り広げる「語り部」活動を地域で展開し、学ぶ取り組みが重要です。とりわけ、11月26日の「80年目の南京」のつどいを成功させましょう。また、2018年3月21日（水・祝）に「理解は絆を強くする」「中国力で可能性を広げよう」を合言葉に実施される、第4回「中国百科検定試験」の成功のため、「教養講座」を着実に多面的に取り組みましょう。

今大会の討議をとおして深めた確信をもとに、大阪府民の中国への関心に応える多彩な活動、その保障となる支部づくりを進め、さらに大阪では、安倍政権の「改憲」の協力者、暮らし破壊のおおさか維新政治との闘いを強める決意をあらたにしました。私たちはここに強大な大阪府連めざし奮闘することを宣言します。

2017年7月2日

日本中国友好協会大阪府連合会第63回大会